

大学生における馬術競技選手の 性格特性について（II）

吉 村 喜 信 ・ 野 島 利 栄

Peculiarity of Character among Student Equestrian Competitors (II)

Yoshinobu YOSHIMURA, Toshie NOJIMA,

The aim of this study is to consider the competitive willingness of the equestrian competitors. Data were obtained by applying T. S. M. I. (Taikyo Sport Motivation Inventory) tests to the college students. We are pleased to report here the results obtained, which showed a clear-enough difference in the competitive Willingness, between the riders and the non-sporting students or the basketball players.

1. ま え が き

筆者は先に性格特性として、Y-G性格検査法を用いて報告¹⁾したが、Y-Gのみでは、一般性格における優秀選手群と非選手群の差異や、スポーツ種目毎の選手群の平均プロフィールにみられる差異などを識別するのには有効であったが、あくまでも性格の一般傾向の特徴をみるのであって、スポーツ競技の意欲を鮮明にとらえるものではなかった。

競技スポーツにおける勝者と敗者とを区別する最も重要な条件の1つは、選手が自ら進んで、自分自身を苦しめる程の達成動機をもっているかどうかであるといわれている。いかに優れた身体資質の持主であっても、苦しい練習に耐え、練習を継続して、目標を達成しようとする意欲が乏しい場合には、スポーツ選手としての適性があるとはいえない。

以上のような考えに基づいて、今回の研究では、TSMI (Taikyo Sport Motivation Inventory) テストを用いた。

2. 測 定 方 法

測定方法は、前回同様、中京競馬場にて、同一選手を対象に行った。

表 I TSMI

性 別 尺度項目	MEN			WOMEN		
	N	MEAN	SD	N	MEAN	SD
1. 目 標 へ の 挑 戦	44	20.11	3.67	46	20.31	3.24
2. 技 術 向 上 意 欲	44	17.43	4.30	46	18.13	3.74
3. 困 難 の 克 服	44	18.57	4.13	46	18.84	4.14
4. 勝 利 志 向 性	44	20.73	4.18	46	22.76	4.22
5. 失 敗 不 安	44	19.00	4.77	46	18.27	4.50
6. 緊 張 性 不 安	44	19.93	4.94	46	20.00	4.35
7. 冷 静 な 判 断	44	22.07	4.64	46	23.42	3.52
8. 精 神 的 強 靱 さ	44	20.48	3.29	46	21.16	4.07
9. コ ー チ 受 容	44	18.23	4.43	46	18.30	3.48
10. 対 コ ー チ 不 適 応	44	21.64	3.67	46	22.02	3.73
11. 闘 志	44	17.44	4.13	46	19.02	3.85
12. 知 的 興 味	44	17.07	4.44	46	19.09	4.82
13. 不 節 制	44	18.64	3.74	46	19.32	3.13
14. 練 習 意 欲	44	21.84	3.74	46	22.93	3.60
15. 競 技 価 値 観	44	19.32	3.50	46	18.91	3.04
16. 計 画 性	44	18.91	3.04	46	21.52	2.40
17. 努力への因果帰属	44	17.25	3.70	46	17.86	3.42

3. 結果と考察

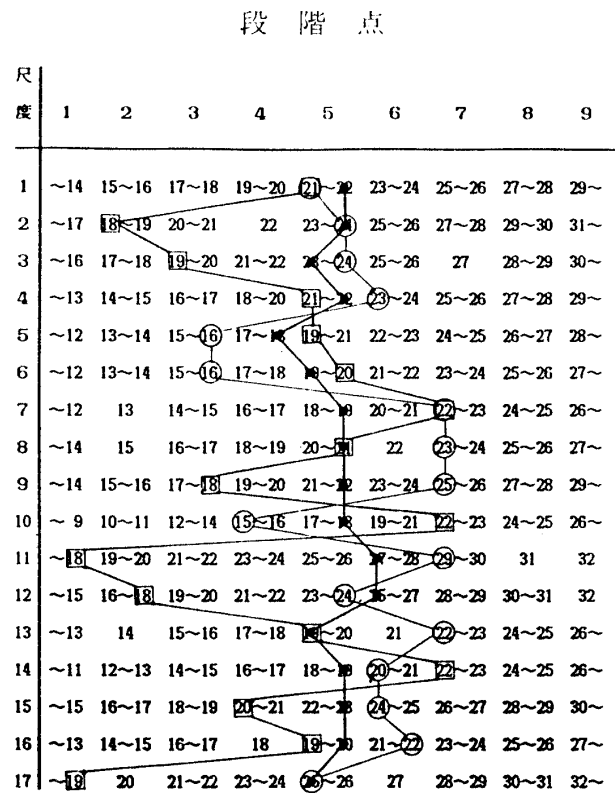
TSMIは、146項目についてそれぞれ4件法で反応させ、よくあてはまるに4点、ややあてはまるに3点、あまりあてはまらないに2点、まったくあてはまらないに1点を与えて、各尺度に含まれる項目の合計得点を算出して尺度得点を求めた。ただし、10、15、33、46、50、53、70、83、95、100、105、107、114、120、123、141、143、145の18項目については、その尺度名をはかる方向とは、逆の項目であるので、よくあてはまるに1点、ややあてはまるに2点、あまりあてはまらないに3点、まったくあてはまらないに4点を与え、逆算して得点化した。このようにして得点化された17の尺度を性別に、全体の平均、標準偏差を示したのが、表Iである。

これをTSMI各尺度の評価基準表にプロットしたのが、図-1、図-2である。各尺度項目に従って考察すると、

1) 目標への挑戦

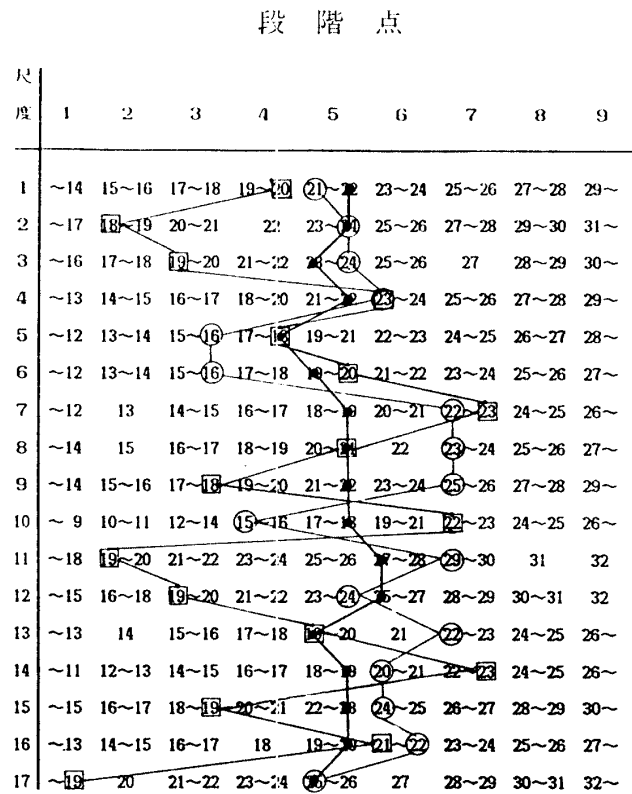
男女共4～5段階にあり、平均的である。

図-1 (男子)



□馬術選手 ●一般大学生 ○ユニバ候補選手 (バスケ)

図-2 (女子)



□馬術選手 ●一般大学生 ○ユニバ候補選手 (バスケ)

2) 技術向上意欲

男女共2段階で、積極的に技能の向上をめざすことへの意欲が薄い傾向がうかがえる。

3) 困難の克服

男女共3段階にあり、困難を克服しようとする姿勢にとぼしい傾向にある。

4) 勝利志向性

男子は、5段階で平均的傾向。

女子は、男子に比べて6段階でやや強い傾向にあるが、まず平均的である。

5) 失敗不安

男女共平均的段階にある。

6) 緊張性不安

5段階で平均的である。

7) 冷静な判断

男女共7段階に位置し、試合場面においても冷静な判断が出来る可能性が非常に高いと推測される。

8) 精神的強靱さ

男女共、5段階で平均的である。

9) コーチ受容

男女共、3段階で、コーチに対する信頼感やコーチに対する柔順さに欠ける傾向にある。

10) 対コーチ不適応

男女共7段階で、コーチとの人間関係がうまくいっていないことがうかがわれる。

11) 闘志

男子は1段階、女子は2段階にあり、男女共大試合や不利な状況、せり合いに極めて弱い傾向にある。

12) 知的興味

男子は2段階、女子は3段階にあり、競技や、スポーツに関する知的な情報にあまり関心がないことがうかがわれる。

13) 不節制

男女共5段階で、試合や練習を中心とする生活習慣が出来ていると推測される。

14) 練習意欲

男女共7段階で、練習が好きで、意欲的かつ持続的に練習に取り組んでいる傾向が強く表われている。

15) 競技価値観

男子が4段階、女子が3段階で、自分が行っている競技が、自分にとって価値のあるものという考えが薄い傾向にある。

16) 計画性

男女共5段階で、まずまず計画的に練習を行っているといえる。

17) 努力への因果帰属

男女共1段階で、試合での成功や技術の向上が自分の努力の結果であるとは考えていないことが極端にうかがえる。

尚、図-1、図-2には、参考の為バスケットボール選手のユニバーシヤード候補選手の資料をお借りする事が出来たので、プロットした。それらと比較すると大きな違いがうかがえる。

4. ま と め

本研究の目的は、TSMIを手がかりに、大学生の馬術競技選手の競技意欲を調査することである。被験者は、中部学生馬術連盟所属の中部学生馬術大会出場者（男子：N=44、女子：N=46）であった。

結果として、男女共ほぼ同じ傾向が見られ、他の競技選手と異なる傾向を示した。その顕著に表われた項目は、「技術向上意欲」「コーチ受容」「対コーチ不適応」「闘志」「努力への因果帰属」「冷静な判断」「練習意欲」であり、これらのことから、練習は好きで、意欲的かつ持続的にやり、競技における冷静な判断が出来るが、技術向上意欲にとぼしく、競技における闘志がなく、試合での成功志向も低いと推測される。又、コーチへの信頼性が薄く、意見もあまり聞き入れない傾向にある。このことは、被験者の競技レベルが、地域的にあまり高いとはいえず、又練習環境に

においても指導者不足の状況にある事も考慮しなければならないと思われるが、馬という生き物を相手の競技だけに、自己満足におちいりやすく、その結果、他人の意見を聞こうとしなくなった、失敗を馬のせいにするような危険性があると推測された。

参 考 文 献

- 1) 吉村喜信他：大学生における馬術競技選手の性格特性について、福井工業大学研究紀要第17号，1987
- 2) 松田岩男他：スポーツ選手の心理的適性に関する研究—第1報，第2報—昭和55年度日本体育協会スポーツ科学研究報告，1980
- 3) 松田岩男他：スポーツ選手の心理的適性に関する研究—第3報—昭和56年度日本体育協会スポーツ科学研究報告，1981
- 4) 吉沢洋二他：ホッケーの女子トッププレーヤーの心理的適性について，総合保健体育科学第6巻1号，名古屋大学総合保健体育科学センター，1983
- 5) 吉沢洋二他：バスケットボール選手の心理的特性—高校バスケットボール選手のTSMIの特徴について—総合保健体育科学第7巻1号，名古屋大学総合保健体育科学センター，1984